

令和5年度 学校評価報告（目標設定）

| | | 1年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|--------------|--|--|--|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 1 | 教育課程 学習指導 | <p>①新学習指導要領の実施に伴い、インクルーシブ教育としての「主体的・対話的で深い学び」を意識し、教育実践に反映させるとともに、すべての生徒の実態を踏まえた教育課程を構築する。</p> <p>②「シチズンシップ教育・人権教育」についての実践研究を活かした授業改善により、生徒の主体的な学びの力を育む。</p> | <p>①カリキュラムWGを設置し、教務情報Gと協働しながら学校全体や生徒の将来像を見据えた教育課程を再編する。1人1台PCを活用し、個別最適な学び方、教材を提示する。</p> <p>②学年行事や授業を通して地域理解を深め、自らの政治参加意識を高めさせる。また自他を敬愛する心を持ち続けることの大切さについて考える授業を実践する。</p> | <p>①各教科からの要望を時間割や講座数・人数に反映させることができたか。1人1台PCの活用状況や内容を教科や学年ごとに調査し、授業評価の項目7の3.4の割合が70%以上を継続できたか。</p> <p>②主体的な活動によって、政治参加意識や人権意識を高めることができたか「シビックプライド」を用いて検証する地域への愛着スコアが6.0以上になったか。</p> |
| 2 | 生徒指導・支援 | <p>①授業を大切にできる態度を育成するとともに、自他を尊重した、「生き方」「在り方」を育ませる。更に、生徒のため、教育相談体制を充実させる。</p> <p>②生徒が主体的に企画・運営を実施できる学習機会・学校行事を検討・提供していく。</p> | <p>①正装指導を柱に基本的な生活習慣の確立を図る。複雑化・多様化する生徒指導・教育相談に対して、SC・SSWと連携しながら支援の要素を含めて考え、教育相談体制の再構を図る。</p> <p>②計画的な生徒会活動、委員会活動を促すことで、生徒の発想を引き出す場を設定する。</p> | <p>①正装に対する意識の向上が式典関係や定期テストの際のチェック表に現れたか。生徒指導・教育相談に対してSC・SSWと連携し生徒・家庭・教員の三者が最適安心な支援ができたか。</p> <p>②学校行事の企画運営に関わり、満足できる生徒が85%以上になったか。</p> |
| 3 | 進路指導・支援 | <p>①インターンシップ、体験的なプログラム等に積極的に参加するよう、働きかける。また、教科活動の中でスタディサブリ等外部プログラムを積極的に活用し、学習の定着と家庭学習の習慣化を図っていく。</p> <p>②生徒の個性や進路意識の段階を踏まえ、個に応じたキャリア教育を推進し実践する。キャリア教育の視点を生かした教科指導、特別活動の指導内容等を研究する。</p> | <p>①将来の職業イメージを描き自己実現を考えた進路選択を導く。スタディサブリの活用を促し年2回の到達度テストと外部模試を併用し進路選択の幅を広げていく。</p> <p>②生徒との面談や相談に対応できる環境を充実させ、キャリアガイダンスや上級学校訪問などの企画運営を研究し実践する。</p> | <p>①キャリアガイダンスに参加し進路選択への意識(大学進学率60%以上)が高まったか。スタディサブリ、外部模試の平均値C3がB3に上がったか。</p> <p>②二者面談や進路室の活用を促し個々の相談に対応できたか。上級学校訪問や模擬授業、社会人講話を年10回以上企画実施することができたか。</p> |
| 4 | 地域等との協働 | <p>①本校の教育活動について、保護者や地域に向けて、より広く情報発信に取り組む。</p> <p>②地域、大学、専門学校、企業、行政機関等との協働連携を促進し、本校の教育力の向上を図る。</p> | <p>①シチズンシップ教育研究指定校として、地域連携を含んだ学習活動を集約して取り上げ、発信していく。また、地域中学校が開く個別の学校説明会に積極的に参加していき、本校の活動内容を発信する。</p> <p>②高大連携校との交流をより密にし、生徒の上級学校への進学意識を向上させる。</p> | <p>①シチズンシップ教育関連の内容をHPで毎月更新できたか。地域中学校から依頼があった個別学校説明会に3回以上参加することができたか。</p> <p>②高大連携校から講師を派遣してもらい、模擬授業や体験授業を開催できたか。</p> |
| 5 | 学校管理 学校運営 | <p>①UDLの観点に基づいた授業づくり、環境づくりを行い、すべての生徒にとって安全・安心な学習環境を整備する。</p> <p>②円滑で効率的な学校運営に取り組むとともに、教員が健康で働きやすい職場づくりを進める。また、不祥事防止について教員の意識を高める。</p> | <p>①フロントゼロやホワイトボードを利用した情報提供、各教科の特性に応じたUDLの観点に基づいた授業など、すべての生徒にわかりやすい環境をつくる。</p> <p>②各学年に支援リーダーを配置し、支援担任の業務のとりまとめやフォローを行う。</p> | <p>①誰にとってもわかりやすい情報提供がなされたか。UDLの観点に基づいた授業ができたか授業評価項目8の3.4の割合が80%を超えたか。</p> <p>②週1回の支援担任会議以外に、支援担任オリエンテーションができたか。不祥事防止のための情報を、全職員で共有できたか。</p> |